

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、アレルギー検査報告書の全面リニューアル及び、
ウイルス肝炎検査報告書の一部変更をさせていただきます。
何卒ご了承賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬白

記

■ 実施日 2019年12月2日(月) ご報告分より

■ 変更内容

アレルギー検査報告書

- ・検査結果が見やすくなることを目的に、用紙サイズをA4へ変更いたしました。
 - ・サイズ変更により全てのアレルギー項目が、出力可能となりました。
追加項目：IgE(非特異的IgE)〔CLEIA〕・特異的IgE(シングルアレルゲン)〔CLEIA〕、
TARC(Th2ケモカイン)、特異的IgE(Ara h2)(ピーナッツ由来)
 - ・プロット表記をクラス別へ変更し、これまでより見やすくなりました。(裏面①)
 - ・報告書の裏面に判定基準を掲載いたしました。(裏面②)
 - ・報告書の裏面を国立成育医療研究センター アレルギーセンター長の 大矢 幸弘先生よりご監修いただきまして、説明文を見直しております。(裏面③)
- ※ レイアウトの詳細は裏面の①～③をご参照ください。

ウイルス肝炎検査報告書

- ・報告書の表面下部にある説明文章を変更いたしました。
- ※ レイアウトの詳細は裏面の④をご参照ください。

アレルギー検査報告書

新

SRL アレルギー検査報告書

〒113-0033 東京都文京区千石 八王子大学 東洋館八王子子小基研引番期

検査項目: 非特異的IgE アトピー鑑別試験 TARC

アレルギー名	クラス	結果	コメント	基準値	0	1	2	3	4	5	6

※目的検査から推定されるアレルギーは★印の図です。

アレルギー検査項目: 卵、牛乳、小麦、そば、大豆、豚肉、鶏肉、牛肉、魚介類、果物、野菜、花粉、動物性たんぱく質、その他

検査責任者: 八王子大学 東洋館八王子子小基研引番期

アレルギーの除去と回避のための注意点

原因(症状を起こす物質=アレルゲン)を検査し、これらを除去・回避することが大切です。

室内塵(ホコリ)・ダニ

- カーペットはなるべく使用せず、フローリングにして、拭き掃除をする。
- 寝具はよく乾かさせ、ダニの適温できない高密度繊維のカーパーやシーツをかけて、最低1週間ほど一度洗濯する。
- 掃除しやすいように、できる限りものを減らして楽がたまらないようにする。

花粉(花粉が飛散する時期)

- 風の強い晴れた日(特に朝の早朝)は花粉の飛散量が多い。
- 花粉飛散量を参考にして、花粉が多いと食には外出を控え、花粉の多い場所には行かないようにする。
- 外出時はマスク、メガネ、帽子などを着用して、できる限り花粉が身体に付かないようにする。
- 帰宅時は家に入る前に衣服についてた花粉を落とし、鼻うがいや洗顔をする。
- 換気口(空気の取り入れ口)にフィルター付きの換気扇をつけるか、室内に空気清浄機を設置する。

代表的な花粉の飛散時期(地域や気象条件により若干の変動があります)

花粉	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スギ												
シラカバ												
ハルガヤ												
オオアワガエリ												
ブタクサ												
ヨモギ												

動物(ペット)

- 動物は室内では飼わない。
- 動物の毛皮にも抗原(アレルゲン)がある。
- 動物の抗原に影響を受ける場合は近づかない。
- 動物を飼うと衣服にも抗原が付いている。

真菌(カビ)

- カビ胞子は、5~7月、9~11月にたくさん飛散する。
- エアコンの冷却フィンのカビ取りをおこなう。
- 浴室、台所、押入は早めに換気してカビの付着を防ぐ。
- 加湿機は使用しない。
- 洗濯機は室内に干さない。
- 洗濯機のカビ取りをおこなう。
- 24時間換気する場合は、室内の換気口をふさがない。

食物

- 食物アレルギーはIgE抗体検出だけでは診断できない。
- 治療の原則は原因となる食物抗原を含む食品をとらないこと。
- 食物を制限するときは、必要以上の制限をしないように医師の指導を受ける。
- 食物は産地や産法に注意。品質が安定しないように注意する。
- 花粉やダニなど食物以外の抗原との交差反応で生ずる食物アレルギーもある。

※修: 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

判定基準

特異的IgE (Viewアレルギー-39)	特異的IgE (MAST48max/MAST36)	シンプアルレルゲン(CLEIAプラス)	シンプアルレルゲンFEIA(CAP)
0 0.2未満 陰性	0 0.1未満 陰性	0 0.10未満 陰性	0 0.35未満 陰性
1 0.20 ~ 0.50未満 弱陽性	1 1.40 ~ 2.77 弱陽性	1 0.10 ~ 0.34 弱陽性	1 0.35 ~ 0.70未満 弱陽性
2 0.50 ~ 1.80未満 陽性	2 2.78 ~ 13.4 陽性	2 0.35 ~ 0.69 弱陽性	2 0.70 ~ 3.50未満 弱陽性
3 1.80 ~ 7.05未満 陽性	3 13.5 ~ 58.0 陽性	3 0.70 ~ 3.49 弱陽性	3 3.50 ~ 17.5未満 陽性
4 7.05 ~ 17.35未満 陽性	4 58.1 ~ 119 陽性	4 3.50 ~ 17.4 弱陽性	4 17.5 ~ 50.0未満 陽性
5 17.35 ~ 29.31未満 陽性	5 120 ~ 159 陽性	5 17.5 ~ 32.4 弱陽性	5 50.0 ~ 100未満 陽性
6 29.31以上 陽性	6 160 ~ 200 陽性	6 52.5 ~ 99.9 弱陽性	6 100以上 陽性

特異的IgE (Ata H-CI (ピーナッツ由来))
特異的IgE (体積) (U/ml) 判定
0.35未満 陰性
0.35 ~ 3.99 弱陽性
4.00以上 陽性

ウイルス肝炎検査報告書

新

SRL ウイルス肝炎検査 報告書

〒113-0033 東京都文京区千石 八王子大学 東洋館八王子子小基研引番期

検査項目: HBs抗原、HBe抗原、HBc抗体、HBV DNA、HCV抗体

検査項目	結果	判定	検査者	検体
HBs抗原				
HBe抗原				
HBc抗体				
HBV DNA				
HCV抗体				

検査責任者: 八王子大学 東洋館八王子子小基研引番期

抗原検査全般について
検査結果が感度未満(陰性)の場合においても、ウイルスの存在を否定するものではありません。

カットオフ値付近におけるデータ解釈について
最近の検査方法では高感度化に伴い、従来の測定法にあった判定保留域の設定が無くなりつつあります。また、高感度化により検出感度は向上しましたが、感染初期においてはウィンドウ期が存在することから、HBs抗原やIgM-HBc抗体などでは、判定の基準となるカットオフ値付近で陰性となる場合も考えられます。これらのことから、陰性・陽性の判定結果のみならず、判定の基準となるカットオフ値付近におけるデータ解釈については、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的に判断する必要があります。

HBc抗体について
HBc抗体は、HBV感染後長期間に渡り血中に存在する事が知られており、HBV感染者を既往症を含めて広く拾い出すのに有用とされています。ただし、HBc抗体方面によるHBVキャリアの判定には限界があることから、HBVキャリアの診断には、HBs抗原やHBV DNAなどの検査結果や臨床経過を考慮して総合的に判断する必要があります。

HBV感染およびHCV感染の診断については裏面をご参照ください。

SRL 株式会社 エスアールエル
八王子子小 東京都八王子子小基研引番期

医療機関専用問い合わせ先
(データインフォメーション) 責任者

52725-1910-06-1242